

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ	
事業の実施者	実施団体名	勇気づけサークルでこぼこピース
	所管部署	市民活動推進課

2. 事業のプロセス評価

設問		でこぼこピース				印西市			
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	・指定テーマである「男女共同参画に関わる啓発事業の実施」と団体として活動していることの目的や方向性が一致するか確認した。				・指定テーマである「男女共同参画に関わる啓発事業の実施」と団体の活動の方向性が一致するか確認した。			
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	・男女共同参画事業とアドラー心理学との関連性をはつきりさせ、指定テーマにふさわしい内容となるよう相談。より幅広い市民を対象とした事業になるよう検討。				・男女共同参画事業とアドラー心理学との関連性を明確にし、指定テーマに沿った内容となるよう相談。				

	設問	でこぼこピース	印西市
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった	1. 行った 2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった	1. 残した 2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	・広く市民に関心をもっていただけるようタイトル名を工夫した。また、講演会に参加された方の年代(20~70代)を参考にし、講座の募集対象も当初の「子育て中の方や子どもとの関わりに関心のある方」と限定せず、「市内に在住在勤の方」と変更した。	・できるだけ団体の意見を尊重し、事業を実施した。団体におまかせしたことで、チラシのタイトルや、事業の会場作り等、行政にはない発想で実施できたことが非常に良かった。
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・講演会、講座の参加者に対してアンケートを実施し感想や意見をいただいた。ケーブルTVにて事業内容を発信。	・ケーブルテレビで事業の紹介をした。
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	・講演会、講座の企画・運営・講師選定は団体が引き受けたが、運営するにあたり会場確保や広報掲載、チラシの配布(公共施設、小中学校、幼保育園)や参加者の取りまとめなどは市が担当。チラシのデザインは市職員に意見を求め、微調整していただいた。その時々で話し合い、できないことはお互いに協力して行ったと思う。	・分担は、お互いに話し合いながら決めていった。主に事業のチラシや実施内容については団体が、会場を押さえたり、学校や施設等へのチラシ配布など行政側が担ったほうが効率が良いものは行政が。それぞれが得意分野を生かした分担ができた。
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	・チラシ代と人件費が主な経費であったが、コピー用紙を色紙から普通紙に変更するなどして予算に合わせてできた。	・途中用紙代が足りなくなりそうので、カラー用紙を普通紙に変更したり調整したため、もう少し資金(委託費)を多くしても良かったのではないかと思う。資金を抑えめに試算したようであったが、もう少し委託費を高く見積もったとしても、費用対効果は充分にある事業だと感じた。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

設問	でこぼこピース				印西市			
	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○			○			
実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・連続講座の対象を「子育て中の方、子どもとの関わりに興味のある方」から「印西市に在住在勤の方」に変更した以外は当初の計画通りに実施できた。				・広報活動から当日の事業実施まで、おおむね予定通り実施できた。申込み人数が定員をオーバーし、その部分だけが想定外であった。			
Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○			○			
達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・参加された方にとっては身近な問題として家族の在り方を考えるきっかけになったり、自分を知ることで自己肯定感を育むきっかけになったと思うので目的は達成できたと思う。ただ、男性の参加が少ないのが残念でした。				・団体の目的である「自分を知り人とよりよい関係をつくるための啓発」、市の目的である「男女共同参画に関する意識の向上」が十分に達成できた。			
Q18 経費の支出は適切でしたか。		○			○			
適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	・適切であった。				・適切であった。			
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	○				○			
事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	・男女共同参画事業の最小単位は家庭である。講演会「しあわせ家族のつくり方」では家族との関係を考えていただき、講座「幸せのみかた」では見方を変えることで自分を味方にして自己肯定感を育むきっかけをつくるのができたのではないかと思います。家庭の中に1人に変化があれば関わり方も変わらと思うが、課題は男性参加の増加への工夫である。				・男女共同参画事業に関する事業は、どこも人を集めることが難しく、なかなか啓発効果が得られたと感じることが困難な事業が多い中で、今回の事業は、男女共同参画の理解の促進、意識の向上が十分に図れたと思う。男性の参加者が少ない等の課題は残るものの、幅広い年齢層に多数参加していただけるなど、課題の改善につながったことの方が目立つ。			

協働事業実施後

設問	でこぼこピース	印西市
<p style="text-align: center;">今後の展望</p> <p>事業の今後についての見通しをご記入ください。</p>	<p>・今回講座に参加された方から定期的な勉強会を希望があり、講演会の講師である鶴田先生にきていただくことにした。勉強会は6月10日から3ヶ月毎に開催する予定。実践や振り返りを行うことで身につけていくので、今回の参加者には復習となり、初めての参加者にも加わっていただき、自分らしさを肯定し、一人ひとりの個性と能力を発揮できるような社会になっていくようこれからも勇気づけコミュニケーションの啓発を継続していきたいと思っています。</p>	<p>・今回の事業のような方向性が、市民からのニーズがあるということが分かったので、今後も、北村氏を講師とする講座を企画して行こうと思う。普段から、団体としての活動をしている北村氏の方が、市民の考えていること、望んでいることなど、行政よりずっと理解しているので、今後、北村氏のアドバイスなどを参考に、市民目線の講座を企画して行きたい。</p>

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、指定テーマ「男女共同参画に関わる啓発事業の実施」に対する提案として採択され、平成29年度にはじめて実施されました。

本事業は、アドラー心理学を学び、対人関係における自己肯定感をあげる勇気づけ勉強会を行っている団体による外部講師の講演会、内部講師の連続講座及びフォローアップ会を通し、男女共同参画について考えるきっかけを提供することを目的に実施されました

当初の課題とされた事業目的のすり合わせや市民ニーズについては、契約に先立ち、団体と担当課で密にコミュニケーションをとり、慎重に検討を進めました。良好なパートナーシップ関係は、事業実施における円滑な役割分担からも窺うことができます。そうした結果は、参加者、実施団体、市の三者ともに高い満足度を示したアンケート及び評価シートに端的に表れております。少ない経費と効率的な労力にもかかわらず、三者にとってメリットの大きい、高い協働の意義が認められる事業を展開できたと考えられます。

本事業は企画提案型事業としては単年度で終了となりますが、両者は今後も引き続き協働の取り組みを進めていくことになっております。協働の好事例として他の事業にも波及していくことが期待されます。